

ワークショップ

女性が起業するワケ

～やりたいことをカタチに。その一歩を今～

コーディネーター

加藤 香

NPO法人bond place理事

ファシリテーター

小笠原 祐司

山梨学院大学学習・
教育開発センター 特任講師

テーブルファシリテーター

山梨学院大学学生



【第1部】

▼加藤:全体のコーディネーターを務めさせていただきます加藤香と申します。

1971年生まれで、今49歳です。甲府市出身ですが、今は南アルプス市に住んでいます。若いころから商工会の事務局を経て、今は若者や子育て中の母親を対象に起業支援などをさせていただいています。NPO法人の理事を務めています。

女性会議とか、女の人がたくさん集まっているとドキドキしてしまいます。女の人たちの集まりとか怖くて、幼稚園などでもお母さん同士が集まっていると、なかなかそのグループに入れられないようなタイプでした。ですが、ちょうど東日本大震災をきっかけに、女性がNPOを立ち上げたり、起業したり、身近に困っている人がいて見て見ぬふりができなくてやり始めたという人たちに出会うことができました。損得勘定とかを抜きにして、とても傷ついている人に対して一生懸命、事業やボランティアで活動している姿をいっぱい見てきました。ボランティアは悪いことではないのですが、「無償で」とか「当たり前」とか役割を押し付けられるという姿もすごく見てきて、悔しいなという思いもたくさんしてきました。女性の起業支援に携わらせていただく中で、女性は起業の相談というより人生相談なのだなどは感じております。皆さん一人ひとりの人生の中の登場人物の一人として、いつもありたいなと思って今は事業をやっています。普段は「かおりさん」と下の名前で呼ばれています。フェイスブックにもこの写真でアカウントを作っていますので、この講座の後でもフェイスブックでつながっていただけたら嬉しいです。



今日の分科会の目的は、「働く」と「暮らし」をどちらも犠牲にしないで、ライフもワークもミックスして、自分らしくあることを大切にしたい起業等の理解をしていただくことです。今日の流れて「Can-Pass(キャンパス)」と書いてありますが、甲府市では3年前から女性の活躍というところで、起業やNPO活動、ボランティア活動を始める女性たちを応援するという事業をやってきました。その事業の名前がCan-Passとなります。ここの理解、説明をするのがまず始め。そして実際に2年間のセミナーに参加してくださった方にインタビューをしていきます。最後に、私たちがCan-Passという事業の中で大切にしてきたことをプチ体験ということで、赤と黄色の小さなレゴ®ブロックを送らせていただきました。それを使って皆さんにも、「自分自身も

気が付いてなかった」ということを再発見するワークを体験していただきたいと思います。普段、子どもや介護、地域のことなどに追われがちな女性の皆さんに、改めて今日は「自分らしさって何だろう」って体験していただくワークを入れております。これから、皆さんに、お名前・どこから参加しているか・今日の期待について、自己紹介していただきたいと思います。全員だと大変なので3人1組のグループに分けていきたいと思います。

～グループワーク開始(1グループ抜粋)～

▼参加者: 去年、Can-Passに参加していました。今は甲府市の自宅からつながっています。目の前で子どもが遊んでいるので騒がしくなるかもしれませんが、今日は皆さまとZOOMでより深く関わり、楽しめたらいいなと思います。

▼参加者: 男子学生で、一人暮らしの部屋から参加しています。今日は、女性が集まるところに男子として参加します。いい経験になればと思っています、会話を楽しみたいです。

▼参加者: 甲府市から参加しています。いろんな人の経験や価値観を聞くのが好きで、今日は皆さんのやりたいことや考えを聞かせていただきたいです。

▼参加者: 愛知県から参加しています。ずっと男女共同参画を進めていたので、日本女性会議には毎年、参加しています。今日は皆さんと会話できることを楽しみに参加させていただきます。

～グループワーク終了～

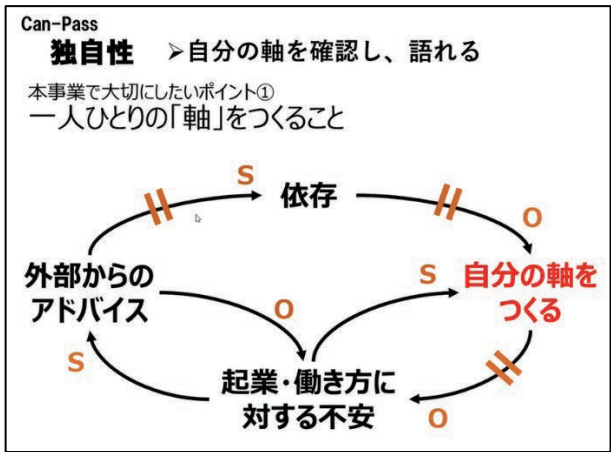
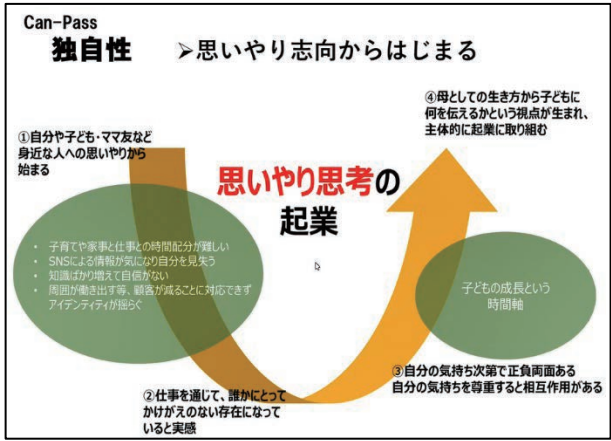
▼加藤: これから甲府市の事業Can-Passについて説明をしていきます。甲府市で3年間やってきたCan-Passは、商工課ではなく、人権男女参画課の事業という点が特徴です。いくつかポイントだけ紹介させていただきます。

まず1つ目は、「思いやり志向から始まる」ということです。思いやり志向とは、女性が活動を始めたり、事業を始めたりする理由は、身近で自分と同じような境遇にある人の苦しさに対する思いやりから始まるのが特徴です。

例えば、コンビニでお弁当を買って一人で食べる高齢者の方を見て寂しくなったのでお弁当屋さんを始めた方のように。ただ、事業を始めたらすぐに右肩上がりに事業が進んでいくわけではなく、スタートの時点で一度下ります。子育てと仕事の時間配分にとっても戸惑うからです。起業の中で、そこが女性の特徴で、子どもが熱を出してしまった時、仕事をドタキャンしないとならない場面が出てくると、自分は社会人として無理なのかなとなってしまう。しかし、熱を出している子どもを残して出かけられるかという、そういうことではない。道徳心をやられてしまう。したがって、男性起業家とは異なる視点や課題、時間軸に影響されることに理解が入っていない起業支援が、いわゆる手順、事業計画書を書いたり、資金を調達したりといった手順をなぞるだけになってしまうと、参加する女性側もそれを支援したい支援機関側も、なかなかうまくいかないところがあります。

ただ、女性は下りっぱなしではなく、子どもの成長や自分の商品、サービスが誰かにとってかけがえのないものだと実感する中で、だんだん自分の気持ちが整理されていきます。母としての生き方から子どもに何を伝えていったらいいか、自分が働くことをとおして、子どもに何を伝えていったらいいかを言葉にできるようになって、主体的に起業に取り組んでいくというところがあります。商工課ではなく人権男女参画課が行う女性の起業等支援というところです。

次に、自分の軸を確認し、語るということが大切だと私たちは学びました。事業がうまく続いている人の中に、その人らしさがあると思います。他の誰かのまねとか、資格を取ったからとかではなく、何をやっているかではなく、「なぜそれをやっているのか」を語る状態が大切です、うまくいっている人にはそういうところがあるなと思います。初めに、起業や働き方、活動に不安が起きた時に、まだ自分の軸ができていない状態で専門家の対処療法的なアドバイスを受けてしまうと、副作用としてそこに依存が起きていました。困ったら何かに頼るといって依存が起きてくるうちに、結局、辞めてし



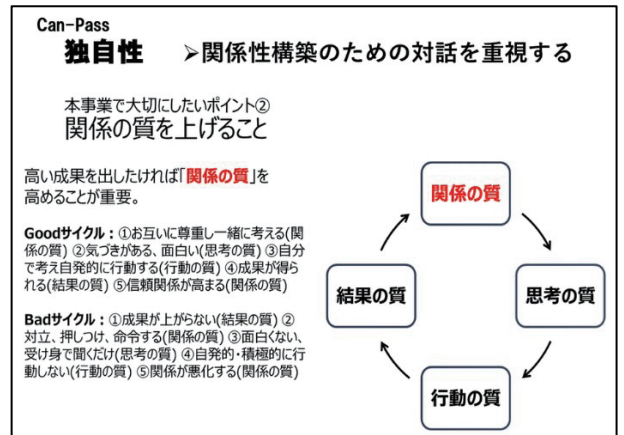
まう。自分で決められないという副作用が起きていました。なので、私たちの起業セミナーの中では、まず一番初めに、「なぜ私はそれをやるのか」という自分に向き合うという作業をずっと愚直に繰り返してきました。最初から、とにかく自分に向き合って、他者に語る(喋られる)、ということをやっています。

次の特徴は、関係性構築のための対話を重視することです。女性が何かを起こしたいけど相談する相手がいないということが、アンケートの中にたくさん出てきました。なかなか起業の相談はしにくいので、関係性を構築していくということに力を入れています。そのため、事業名は誰かの「できる」を応援する「Can(キャン)」、それを「Pass(パス)」するということで「Can-Pass」という名前にしました。価値観が同じ人たちとチームになり、お互いにパスし合っ一緒にやっていくことを大切にしています。これも甲府市の事業の特徴になっています。そして、支援機関を巻き込んだ体制を作りました。参加者と市役所をはじめとした支援機関などで、セミナーの中では女性と同じグループに入っていただきます。支援機関がセミナーに会いに来ることは、なかなかないと思いますが、女性と同じテーブルで同じワークを体験していただきます。女性が事業計画書を書くのではなく、女性は自分のやりたいことをお話しして、それを聞き取った支援機関の方が整理して、事業計画書を作成します。女性が話したことを専門家さんの視点で見ると、どういうビジネスのしくみになるのかを壁打ちしています。この活動をとおし、支援機関さんも女性の価値観に触れ、ファンになっていくのが目に見えます。相談機関はたくさん甲府にもありますが、顔も知らない人のところへ会いに行くのは難しいなと思っていて、セミナー自体に金融機関さんや行政の方たち、男女参画センターといった支援機関の方たちがやって来て交流するといった形を作ってきました。

成果といえば、先ほど説明してきました独自性の中にあつた自分の軸を作るとか関係性の質を高くするといったことに対する、このCan-Passの伝えていきかけたこと、続けていきかけたことが、参加者へのアンケートの中でも反映されているなどと思っています。

ただ、3年間の事業をやっていますが、どうしても行政の事業は単年度になりますので、来年絶対あるかと言われれば分からないし、担当者も異動になってしまうかもしれないという課題もあるかと思っています。セミナーは5・6回、2~3カ月になるので、セミナーがない時、モチベーションが下がってしまいます。皆で盛り上がっていた時は良かったけど、終わった途端に普段の日常に追われて続かなかつたということもあるので、Can-Passノートというものを作りました。「チラシみたいなものを作っても捨てられちゃうのでは」ということで、絶対捨てられないように、母子手帳をイメージして書き込み式になっています。始めのほうに自分のことを整理して、途中で自分の事業・商品・サービスを必要とするお客さんのことを書いて、お金のことを書いて、未来のことを書くというようなノートです。セミナーが無い時でも、改めて自分はなぜ活動をやろうと思ったのか事業をやろうと思ったのか、立ち戻るためのCan-Passノートです。ぜひ皆さんも自分のことを書き込んだり、今日は支援機関の方もいらっしゃるの、相談に来られた方がいらっしゃいましたら見ていただきたいと思います。実際に甲府市には、起業や活動を支援するという機関はたくさんありますが、まだまだ縦割り感があります。たらい回され感をなくして、担当者が異動になっても、同じように事業、プログラムができるような、ハブになるような拠点をこれから作るために、どうしたらいいか、改めて皆がやりたいことを、ちゃんと口にすることが大切だと思います。口にしないとチャンスが広がらず、環境は変わりません。自分らしさとか自分がやりたいことを口にして、それを一緒にやりたいという仲間が広がっていくということを、これからもこの事業でやっていきたいと思っています。

私のほうから、このCan-Passという事業の説明をさせていただきましたが、言葉だけでない実状を、これから2年間Can-Passの事業に参加してくださったCan-Pass生の佐藤かおりさんにインタビューをしていきたいと思っています。簡単に説明すると、佐藤かおりさんは南アルプス市で大きな古民家を使って、Can-Passで出会ったお料理を作る人やエステをする人たちや看護師さんとか、介護保険以外のサービスをしたいという方たちと一緒に、今年の4月に事業を始めました。「パブリックハウス モモ」という、最近話題な、「皆のお家」みたいな場所を作っています。畑で農作業できるし、お弁当もあるし、駄



菓子屋さんもあるし、縁側で日向ぼっこもできるし、健康相談もできるし、といった場を作っている方です。

ここからは、小笠原さんと私で、佐藤かおりさんに、いろいろ質問をしながら進めます。甲府市で開催しているCan-Passという事業に参加する前と後で、どのように変わったかということ質問していきたいと思います。

まず1つ目に佐藤さん。ターゲットにするお客さんが変わったじゃないですか「デイサービスをやりたい」って1年目に参加したのですが、今はお母さんや子ども向けの食の提供をやっている状況を説明してください。

▼佐藤:佐藤かおりと申します。私がCan-Passに参加した時は、介護の仕事をしていました。理不尽な現場を多く見てきたもので「もっと人に寄り添った介護ができないか」とデイサービスを自分で作ろうと思ったんです。その時は自分がこれまでやってきたことが、デイサービスしか知らなかったの、「私のやる事業は、間違いなくデイサービスです」と言い切って入りました。

▼加藤:デイサービスでしか働いてこなかったから、デイサービスでしか働けないと思っていたのね?

▼佐藤:そうです。介護という場所を通じて、不登校の子どもがいるお母さんに働いてもらったり、不登校の子どもが来ればいいのか、介護保険の使えない人は、働き手となりながら利用してもらったりすればいいと考えていました。母子支援という言葉も知らなかったの。

▼加藤:なんで変わったの?

▼佐藤:とにかくCan-Passで、「何でそれを自分がやるのか」「自分の価値は何なのか」をひたすら聞かれたからですね。

私は、起業支援は起業の仕方を教えてもらえたら、Can-Passはただひたすら自分探しというか。

▼小笠原:佐藤さんからしたら、今おっしゃったみたいに起業の仕方を聞きに来ているのに、「なぜ」って聞かれた時、正直どんな感情でした?

▼佐藤:「どういうこと?」って思いました。戸惑いもあって、「キャッシュフロー」とか横文字が多くて「は?」みたいな。私、ポストイット(付箋)も知らなかったんですよ。38~39歳でCan-Passに行ったけど、自分の生きてきた人生で、全く関わりのない言葉がたくさん出てきて。スマホで検索しても何用語で調べたらいいかも分からない。ただただ横文字の辞書が欲しいと本当に思っていました。

▼加藤:だって、お母さんを応援したいと言うのに、「何をやるんですか?」と聞いたら『デイサービス』と言うので。

▼佐藤:そうです。「子どももお母さんも高齢者も障がい者も、分けるのではなく全部をひっくるめたデイサービスがいいんです」と一生懸命「なぜ」に対抗していました。自分の持っている言葉だけで。

▼加藤:「なぜ」の嵐を受けているうちに、自分の命を懸けてやること、使命はここだなと見つけたってことですね。

▼佐藤:そうですね。「どうせ私なんかできない」と思っていたから、自分のやったことのある経験でできることを考えたらデイサービスという、ただそれだけでした。

▼加藤:パートナーも変わったよね。最初やろうとしていた人たちと今の人たちは全然違うじゃないですか。

▼佐藤:最初は私がこういうのをやりたいんですとなった時に、それはいいと思うよ、手伝うよ、協力するよ、と言う人が集まってくれてなんとなくチームはできました。思いだけで事業ができると最初は思っていたんです。でも、事業計画に何を書いたらいいかも分からない時に、私がトップで皆が協力するかたちだったので、自分が何もかもやらなければいけない。分からないこと、できないことを「協力してくれる」といっても、切り開いていけないところがしんどかった。

▼加藤:一緒にやりたいって人はいたんだけど、「じゃあ、お給料いくら貰えるんですか?」とか、気がついたら「あなたが代表なんだからしっかりして」みたいになっていて、振り回されてぶれていたよね。「お金、どっからもって来てくれるんですか?」みたいな。かおちゃん、母子家庭で生活もいっぱいいっぱい、勤められないから起業しようって言うのに「いくら給料貰えるんですか?」って感じになっていましたよね。

▼佐藤:キャッシュフローがっていった時にも、デイサービスって建物だし、中の物品も何でもいいわけではなかったりして、それをお金に計算してもらったら初期投資で1,250万円位かかりますってなった時に「わー」となって。でも、何とかなるのかなって銀行に借りに行ってみました。死ぬほど怖かったけれど、誰かがやるしかないから、とりあえず行くか、みたいな。

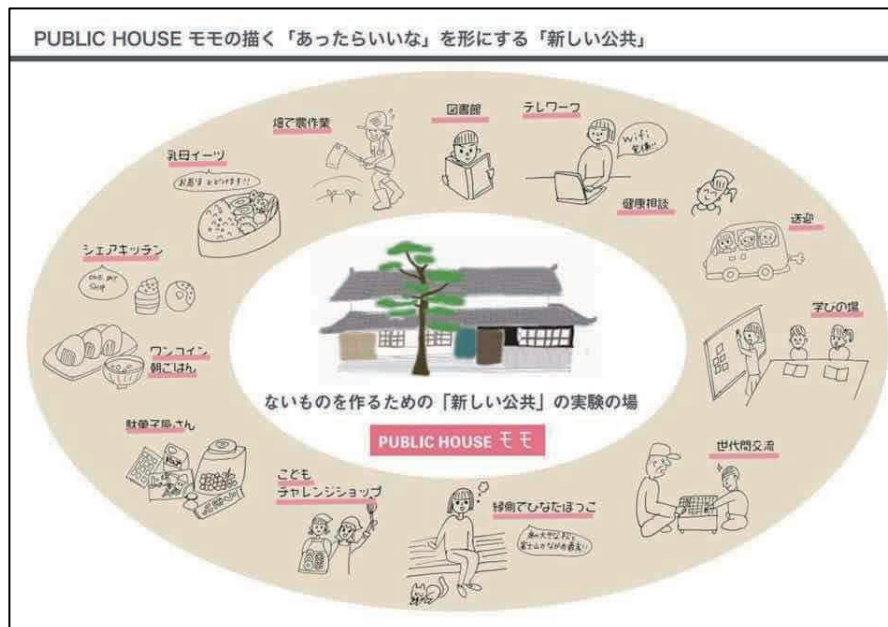
▼小笠原:今の話を聞いていて、起業の仕方とか起業しようということだけを考えたなら、そこで行こうと思わなかったと思うんですよ。さっきおっしゃったみたいに、「命さいてでもやりたいな」と思ったから、行こうかなって気持ちになったのかなと思って。順番が逆だったら行ってなかったなと思いました。

▼加藤:今年4月に事業がスタートできたわけじゃないですか。今どんな感じですか。

▼佐藤:Can-Pass1年目はデイサービスだったけれど、自分自身が母子家庭だった



り、うつ病を経験していたりしんどいことも多かったので、頑張っているお母さんたちを支援したいと思いました。子どもの悩みは、子育て支援課だったり、学校だったり、スクールカウンセラーだったり、いっぱいある。でも、「お母さんはお母さんで頑張ってね」と言われ、私の話は誰も聞いてくれなかったから、私はお母さんたちの話を聞く人になりたいなということに辿りつきました。2年目は、「ご飯」という手段を使ってお母さんを応援するってなって、全部私が決めて何かをやるというよりは、Can-Passで出逢った人たちと「私はこれだったらできるよ」って感じで、一緒に作っていく感じに変わっていきました。そこで価値観の共有というか、これだけは負けれないよね、譲れないよね、ということをしり合わせるというやり方になりました。



▼加藤：皆でやる。フラット。かおちゃんトップダウンの会社を作るんじゃなくて、皆でフラットに、負担も喜びも分かち合うということが分かって、かおちゃん自身が「できないから助けて」と言えるようになったのは大きいかなと思います。

▼佐藤：「できない」って言ったら「それも知らないくせに起業しようとしてるの？」と責められるんじゃないかって怖さがあったけど、2年目からは言っても馬鹿にされない「そうなんだ」と言ってくれる人が近くにいてくれるようになったので「知らない」って言える信頼関係で気が楽になって。でも、知らないからいいってことではないということにも気づき始めたので、自分でも努力しています。

▼加藤：最後の質問で、私はかおちゃんが2年間Can-Passに参加する中で、応援してくれる人が増えたと思うんですね。人見知り、人嫌い、でも起業すると一人では何もできないということにぶち当たってくる。だからこそ、早い段階で関係性を作っていくということをし、起業支援の中に入れていくというのが特徴で、その辺どう思います？応援してくれる人増えたとか。

▼佐藤：そうですね。「パブリックハウス モモ」が今年3月31日にプレオープンで、初めましての人ばかりでしたが、1カ月くらいでフェイスブックのお友だちが80人位増えたんです。人見知りと言ったら、何もできないなという覚悟があって。市役所や行政の人とのつながりも今年はできて、「頑張って」と言ってくれる。友だちではない人たちが話をしてくれるようになったと思います。

▼加藤：市役所、かおちゃん嫌いだったじゃん。水道止められるし、保険証取り上げるし。でも、今、市役所の人たちが毎日お弁当を買ってくれたり、セミナーが終わった後も相談する関係になったって。

▼佐藤：そうです。Can-Passが終わってからも、モモに人権男女参画課の方が来てくださったり、お弁当頼んでくれたり。終わってからも「お世話になりました」で終わりじゃない関係性ありがたいなと思っています。

▼小笠原：今までの話を聞くと、Can-Passに参加する前は、行政の方々を「行政の人」って見てたのが、終わった後は、一個人の人として見るようになったのかなって思ったんですけど、その感覚ありますか？

▼佐藤：人権男女参画課の人たちは個人的に名前と呼んでいます。職員の個人の名前を市役所で覚えるって初めてだったから、親近感があるのかなと思います。

▼小笠原：「役割」の影響がめちゃくちゃでかいなと思っています。僕、大学の先生もやっていますが、大学の先生となった瞬間に一個人としてじゃなくて役割として人を見がちになっちゃう。きっと佐藤さんの中で、参加していく中で役割じゃなくて一個人として見るようになったり、見られた経験っていうのが、良い循環になったんだなと思いました。

▼佐藤：Can-Passが終わってからも、フラットと立ち寄って「今こんなことで悩んでるんですよ」とか、今の事業をもう少し大きくしたいという時に「どうしましょう」ってまた相談できる場所が甲府市にもできたらいいなって思います。

▼加藤：甲府市のCan-Passに参加した皆がね、なぜか南アルプス市に起業してるっていうね。

▼佐藤：甲府市でも頑張って場所は探したんですけど、なかなか広さと駐車場とって考えると難しくって。

▼加藤：かおちゃんが支えてもらったり応援してもらったみたいに、今度はかおちゃんが誰かの壁打ちができるような、そんな場所にモモがなっていくことに期待をしています。佐藤かおりもフェイスブックにいますので、まだつながってない方は探し

てもらえると嬉しいです。

小笠原さん、この辺で第3部。皆さんもずっと聞きっぱなしなので、かおちゃんも体験したCan-Passの中のプチ体験を入れていきたいと思います。

▼小笠原：はい。bond placeというNPO法人の代表をしております小笠原と申します。Can-Passに関してbond placeが少し関わらせてもらったこともありまして、今回おおまかな説明などをさせていただけいましたが、この後、レゴ®ブロックを使ったワークを実際に皆さんに体験してもらいたいと思います。



レゴ®を使う背景を説明しますと、レゴ®シリアスプレイ®という手法がありまして、レゴ®を使って、手で考えて出てきた作品に意味を与えて思考を整理するという手法です。頭で考えてきたものを表現するのではなく、手をいじりながら自分の考えを整理したりするというやり方です。例えば、何かする際、いきなり面と向かって、例えば行政の方と1対1で話したりすると緊張感が高くなったりとか、何を話していいかわからなくなっちゃうこともけっこうあるんじゃないかと思っています。だから物を媒介として話すことによって、コミュニケーションのハードルを下げていると思います。あと、皆さんご経験あるかもしれませんが、グループで一人の人がずっと喋ってしまって、他の人の話が聞きたかったのにできない、やりきれないなって経験あるんじゃないかなって思います。なるべく皆さん同じようにフラットに参加して、「同じように話ができるんだ、この場所は」って感覚を作りたい時に、最初にレゴ®を使ったりすることをよくします。基本的には、すごいシンプルです。僕が皆さんに問いを出します。その問いの答えをレゴ®で形作っていきます。作った物を、皆で見せて話をするっていうただそれだけです。僕が出す問いが「なにそれ」っていうのがたまにあたります。その時も悩まずに手を信じてひたすら作ってみてください。お子さんがいる方は、お子さんが手をいじりながら何かを学んでいる様子を見たことがあるかもしれません。僕らの手って、実は僕らが考えている以上に賢かったり、この手をおして学ぶことってかなりあたりますので、手と頭がめちゃくちゃつながっているとも言われています。なので、自分の考えを表現しづらい時に、手を使ったり、物を使ったりしながら、自分自身を説明しやすくていいんだって感覚を作るうえで、よくやったりしています。通常だと、もっと大量のレゴ®を使ったりするのですが、今回はお試的な形で、ぜひ皆さんとできたらなと思っています。最初は、右手に黄色のレゴ®1ピース、左手に赤色のレゴ®1ピースを握ってもらってよろしいでしょうか。そうしたら、「友情」と聞いて皆さん、どちらの色がしっくりきますか。選んで画面に映してください。黄色の方もいれば赤の方もいっちゃったり、けっこうバラバラですね。ありがとうございます。黄色にした方、どうしてですか。

▼参加者：友だちってというのは、楽しいイメージを感じたので、赤色よりも楽しさを感じるような色を選びました。

▼小笠原：なるほど。ありがとうございます。次は赤の方、なぜでしょうか。

▼参加者：赤はなんとなく情熱の色なので、絆が強いかと思って。

▼小笠原：ありがとうございます。皆さんいろんなイメージがあると思うんですね。それを色だけでも表現しやすかったりしながら、しかもどちらを選んでも、間違えてないと思うんですよ。そういった形でまずは、「今、自分の考えてることって間違えてないよな」とか、「自分はどうしたいんだろう、何が大事なのだろう」というのを、いきなり説明しろではなく、物を媒介としながら話をしやすかったり、そんな考えもあるよな、って受け入れやすくすることをよくやったりしています。



もう1ついきます。右手に黄色、左手に赤のレゴ®を取ってください。今度は「起業」です。起業と聞いた時に、どちらの色のほうがしっくりくるかっていうのを、皆さん目を瞑って握っていただきながら、選んでください。ありがとうございます。では、ブレイクアウトに分けますので、なぜそっちの色にしたかを話していただけたらと思います。どっちが良いか悪いかはありませんので、まず純粋になぜそれにしたかを話してもらえたらと思います。

～グループワーク開始(1グループ抜粋)～

▼参加者：私、赤にしました。頑張っているイメージの色と一人じゃなくて色んな人の力を借りてやっていかなきゃいけないところで選びました。さっき参加者さんが友情の時におっしゃっていたんですけど、絆のイメージの色で赤にしました。

▼参加者：僕も赤です。起業のイメージって、資金とか仲間をいっぱい集めてというところで難しそう、プラス人との関わりが強そうだなと思ったので赤にしてみました。

▼参加者：私は黄色にしました。なんとなくイメージで、赤はやっぱ情熱とか突発的とか攻撃、そんなイメージがあって。黄色はわりと私の中では中和とか長期的ってイメージがあったんです。始めは起業については赤と思っていたんですけど、さっきの佐藤かおりさんの話とかも聞くと、長期的に温厚に色んな人を巻き込んでやるべきなんだなと思ったので黄色にしました。

▼参加者：私は黄色のほうが、色を混ぜやすいなと思って。起業していく時には色んな人の協力がいるなって思ったので黄色

にしました。あとキラキラ輝いているイメージ。起業した時に未来を描いて輝いているといいなと、太陽のようなというイメージで黄色にしました。

▼参加者：輝いているイメージっていいですね。混ぜやすいは初めて聞きました。お上手です。

▼参加者：黄色ってほうで考えても、これからの時代いいかなと思いました。

～グループワーク終了～

▼小笠原：ありがとうございました。もしかしたら「同じ色でも意味合い違ったな」って方もいらっしまったかもしれません。どれも間違いはないって思っていて、そうやってちょっとでも自分のことを話していいんだとか、聞いてもらえるんだって感覚と、「そういう捉え方もあるんだな」ってところから、自分のことだけじゃなく、他者の理解ができる環境づくりをしてみました。すごくシンプルなワークですけど、もう少し、より多様性だったり、違いがあるんだってのを体感してもらうために、ここから1分間ですが、手元にあるレゴ®を使い自分が思うようにアヒルちゃんを作ってみてください。

【参加者は、レゴ®ブロックでアヒル作成】

▼小笠原：終了です。お手元の作ったレゴ®を画面に映していただいてもよろしいでしょうか。他の皆さんのレゴ®を見ていただくと分かると思いますが、同じ物ってほぼ無いと思います。似たような物はあるかもしれませんが、全く同じっていうのはたぶん無いんじゃないかな。面白いのが、皆さんに同じ形、同じ色、同じ数の物をお送りしています。それなのに、全然違う形ができるっていうのがポイントです。よく多様性が大事とか、違いがあるんだよねって言葉で言っても、なんとなく分かるけれどってなると思うのですが、同じ物を渡しても全員、形が違う物が出てくると、一人ひとりが違うんだとか、違いがあって面白いんだってところの感覚になるのではないのでしょうか。アヒルちゃんを作ってもらったんですが、実はこれアヒルちゃんじゃないんです。アヒルちゃんじゃなくて実は皆さん自身を表していると言われていました。これを使って皆さん自身のことを説明していただきたいんです。これはどんなことでもいい。普段のお仕事のことでもいいし、普段の生活のことかもしれない。もしかしたら、自分の内面のことを表しているかもしれない。さっきお話したように手を信じていれば大丈夫です。手と頭の細胞ってめちゃくちゃつながっているって言われているので、作ったけど、言葉を話し始めたら言葉が後からついてくるって感覚があるかなと思います。そういったものとおしながら、自分ってどういう人なんだろうっていうのを矢印を向けて話していくってことをおして、自分の内面・自分の軸を話すきっかけを作っていきたいと思っています。この分科会に参加している僕のゼミ生、これを使って自分自身を表してもらっていいですか。自分の性格のことでも、自分の仕事のことでも、自分のやってることでも構わないので。ポイントは自分の指でレゴ®を指しながら、ここなんだよねって説明してください。

▼参加者：顔を斜めにここだけくっつけてみたところが、他者と違う感じで自分を表現していきたいという気持ちが表れているかもしれません。羽根のところもずれているんです。羽根っぽさを出す感じで、自分をつなげるとどうなるかなと思ったんですけど、名前が翔って、羊に羽で翔ぶっていう字にもなるから、自分に近いのかなとか。将来はいろんな夢があって、それに向かって今いろんな勉強をしたりとか、学校とか、こういう場でもグループワークとかいろんな人と話し合う機会が増えているので、飛ぶ段階というか羽根を広げてるっていう感じで、自分っぽさが出てくるんじゃないかなと思いました。

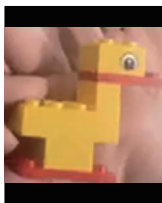


▼小笠原：なるほど。ありがとうございます。翔君、最初はそんなこと思ってなかったけど、レゴ®を見ながら話し始めると、後からついてくる感覚分かりました？

▼参加者：なんとなく、出てくるかは不安ではあったけど、話しながら自分の中の考えとか出していくと、けっこういける感じはしました。

▼小笠原：という形で、レゴ®をとおしながら、話をしてもらえたらと思います。思ったことの答えは、レゴ®が教えてくれますので、思ったことを話してみてください。

～グループワーク開始(1グループ抜粋)～



▼参加者：さっきの翔さんの説明が若者っぽくて素敵だなと思いました。私、すごくオーソドックスかなと思うんですけど、皆さんと比べ、ここが違うのかなと思ったのは、首を長くしたところと立ってるところです。私は今、起業の準備段階で、いろいろ動きながら、情報をすごく求めているんですね。私の起業に必要な情報を広く、どなたからでもいいから欲しいという気持ちが、この首の長いところに表れたと思いました。また、足がドッシリしているところが、早く基盤を作りたいって気持ちですね。



▼**参加者**:私はたぶん普通かな。「お座りアヒル」って勝手に名付けたんですけど。本当は翔さんみたいに個性的なやつを作ってやる、誰にも真似できないオリジナルを作ってやるって組み立てたら、わりとオーソドックスだったっていう。変人になりたい常識人みたいな。それをすごい自分で思うんですよ。変と思われたいけど、結局、枠の中でしかできない人。時間がギリギリになってからやるのも自分を表してるなと思いました。



▼**参加者**:最近、一番下の息子が就職し、主人と2人の生活になって何か始めたいなと思っています。尻尾が長いんですけど、上に行きたい気持ちがあって、最後、付け足しました。一番下に赤色があるんですけど、これは情熱がある人とかいろんな人が協力してくれたらいいなっていう思いがあって付けたのかな。口を赤くしたのも、口でいっぱい喋って、いろんな人とコミュニケーション取っていったら、いろんなことが夢になるかなと思って。口が大事よって強調して赤くなりました。

～グループワーク終了～

▼**小笠原**:レゴ®社はミーティングの時、必ずレゴ®を用意しているみたいで、手をいじりながらのほうが考えが整理されるということもあるそうなんです。なんか考えて、煮詰まったなという時にいじる物として使っていただいてもいいかなと思いました。自分の軸や自分のことを話して、いきなりだと難しいんですけど、「自分のことを話していいんだな、聞いていいんだな」ってところをこういったレゴ®をとおしながら、自分のことについて考えるという機会を作ってみました。ご体験いただき、ありがとうございました。最後にチェックアウトを行って終了となります。

▼**鮫島**:皆さま、長い時間ありがとうございました。今日は数ある分科会の中から、この第5分科会のワークショップにご参加いただきありがとうございます。皆さんのお手元にCan-Passノートが届いていたと思います。女性活躍・起業ってキーワードで分科会を選ばれた時に、このノートを開かれて「え? 起業の話あんまり書いてない」ってびっくりされた方もいたかと思います。Can-Passという事業においては、まさに自分を知ること、自分の軸を見つめること、いろんな人とお話しをすることの中から、いろんなアイデアの種が発見されていく、ということを2年間で学んできました。今日の機会に本当に感謝いたします。今日はありがとうございました。またお会いしましょう。

【第2部】

▼**加藤香**:第5分科会のコーディネーターをさせていただきます、加藤香と申します。

今日の第5分科会の目的になります。甲府市では3年前から、女性の起業、ボランティア活動などを応援する「Can-Pass(キャン-パス)」という事業名で起業支援を行っています。ワークとライフのバランスをとるのではなく、ワークもライフもミックスでということで、どちらも犠牲にしない、どっちも諦めないという自分らしくあることを大切にしたい起業をやっていくことが目的です。1部はCan-Passの説明をさせていただき、2部は実際にCan-Passに参加いただいた女性にインタビューをしていきます。3部はレゴ®ブロックを使ってCan-Passの中でやってきた自分らしさを発見するためのプチ体験をします。皆さんにも、今日の分科会で期待することを含め、自己紹介をしていただこうと思います。



～グループワーク開始(1グループ抜粋)～

▼**参加者①**:学生なので一人暮らしの部屋から参加しています。いろんなお話や考え方を聞ければいいと思います。

▼**参加者②**:甲府市の自宅から参加している主婦です。私は今まさに起業のために準備をしている段階なので、起業に興味がある皆さんの考えをお聞きしたいです。世代も地域も違う方の考えを聞けることを楽しみにしています。

▼**参加者③**:宮城県から参加しています。私は男女共同に関する仕事をしていまして、女性の起業支援を今度していきたいと思っている中で、甲府市のCan-Passの話を目にし、興味があったので参加してみました。

▼**参加者①**:参加者③さんがやっていることは、NPOを作られるんですか。

▼**参加者③**:ではなくて、私、実は公務員なんです。男女共同を施策として進めていく中で、今現在、子育てなどで仕事を離れた人の再就職支援をしています。ただ、プチ起業だったり、家で雇用によらない働き方をする人って女性に意外にいないかな。例えば、塾を運営するのもピアノの先生するのも一つの起業ですよね。そういった人たちを支援できるような取り組みはニーズがあるんじゃないかと思い、トライしてみようと思っています。正直、そっちの世界とかよく分からないので、覗いてみたいというか生の声とか聞けたらいいなと思いました。参加者②さんは?

▼**参加者②**:私は今、うなずきながら聞いてしまったんですけど、私も独身時代バリバリ働いて、結婚しても働いて、子どもを産んでも働きたかったんですけど、住んでいる練馬区の待機児童問題がすごくて、保育園に子どもを入れられなかったんで

す。結果的に復職ができずに退職しました。職安に行った時にレジ打ちしかなくて、過去、自分がバリバリやっていたのに、それしかやるのが無いのかなと思った時に、じゃあ自分でやろう。みたいな流れでここに至るという感じです。

▼参加者①:私のきっかけは、甲府駅にこの会のポスターがあって。学校の先生の小笠原先生にスタッフとして参加してみないかと誘われ、参加してみました。今学んでいるのもビジネスとか経営なので、そこにつながるかなと思っています。将来、私も務めるよりは起業したいという気持ちもあります。

▼参加者③:起業っていっても、いろんな幅があると思うんですけど、窓口になっているのは立派な企業。小さな企業でも気軽に相談できるような、そこでやっていただけるような方とタッグを組んでプチでも立派な起業だし、ハードルが高いことをしないのが女性だったりするのかなと思った時に、手助けができたらいいなというのが思っていることです。

～グループワーク終了～

▼加藤:まず1部になります。甲府市がこの3年間取り組んできた女性の起業、ボランティア活動、NPO活動の支援事業をどんなふうやってきたのか、独自性というところを説明していきます。まず、Can-Passという事業は、思いやり志向から始まるということをお伝えしたいです。思いやり志向って何なのかってところですけど、自分と同じような境遇にある身近の人への困りごとに対して、何かしたい、見て見ぬふりができなくて何かを始めたいという人たちが女性の起業の中には多いということです。起業自体は難しいことではなくて、いつの間にかやっていたとか。幼稚園のお母さんたちのサークル活動の中でやっていたら、いつの間にかそれを仕事にしていたとか、そんなことが多いんだということが特徴になります。ただ、起業したからといって事業が急に右肩上がりになっていくかといえば、全然そういうことではなくて、まずちょっと下るんですね。やっぱり女性に多い特徴としては、スタートの時にすごく課題があるということです。まず、時間配分ですよね。子育て、介護、家事と仕事の時間の配分が難しいというところがあります。大きなプロジェクトや、企業さんと仕事をするようになったけど、子どもさんが急に熱が出た時、社会人としては行かないと「なんだ」「仕事なめてんのか」と言われがちです。しかし、熱が出てうなされてる子どもを置いていくと、母としての道徳心みたいなものも、すごくやられちゃいます。起業してすぐにたくさんの仕事をやる人もいるんですけど、あんまり幸せそうじゃなかったなって思っています。その時間配分がとても大事だけど、相談する相手がありません。結局、「私は母なんだから」と辞めてしまう人が多かったです。男性起業家とは異なる応援が、スタートアップのころには必要だということ。この特徴を無視して、もともとある起業支援の手順をなぞるだけでは、女性の起業を応援しているとは言えないということです。起業支援というと、市役所だと商工課とか産業課とかそういったところが担うと思います。しかし甲府市では、人権男女参画課がこの事業を3年間やってきていて、「思いやり志向」がすごく特徴になっています。

2つ目は、自分の軸を確認して語るということを大切にしています。事業がうまくいってる人の特徴で、その人らしさがあるんですね。誰かの真似をすとか、何か資格を取るとか、そういうことではなくて。カフェを営んでいる人だったら、なぜ私がカフェをやっているのか。カフェをとおして自分はどう幸せになりたいのか。誰を幸せにしたいのか。WHY.MEです。なぜそれをやっているのかということに、スタートの時にしっかりと向き合って、自分だけで考えるんじゃなくて、誰かに壁打ちのようになっていただいて、ずっとそこに向き合っていくということです。起業はどうしても不安は多いです。どうしたらいいか分からないということも多いんですけど、その時点で専門家さんのアドバイスをあまり入れてしまうと、全部が悪いわけじゃないんですけど、対処療法的なアドバイスなので、そこに出会ってしまうと副作用として自分で決められなくなってくる。困ったことがあると誰かに相談する、誰かの意見に左右される、ということを繰り返しているうちに、結局、自分で決められない状態になっていくんですね。なので、起業って自分で決め続けること。始めることも終わることも、自分で決めるということなので、早い段階のスタートアップでは自分の軸をしっかりと作り、そして、それを語るということを大切にしています。

また、関係性を構築するための対話を重視してきました。なので、一方的にこちらから起業のスキルとかそういったことをお伝えすることはないです。対話の中で関係性を作っています。起業をすると、やり始めは自分一人のほうが早いし、決められるし、進んでいくんですけど、やり始めたら一人では何もできないことにぶつかっていきます。営業とか事務とか。なので、関係性を構築する。Can-Passという事業のロゴがCanとPassなんです。Can(キャン)はできるのCan。「Pass(パス)」は人にパスするのPassです。誰かがやりたいという気持ちと、「それ私ができるから、持っているから、お手伝いするよ」っていうパスですね。誰かがやりたいと言ったら自分の持っているものをパスする、お互いに交換するというのが大事です。大きなプロジェクトを一人で担うと自信がなくて躊躇してしまうんですけど、皆で補いながら、でも同じ価値観を共有している人たち、哲学を共有している人たちと一緒にやるってということで、継続的な大きなプロジェクトも受けられるということです。これをロゴにも込めて誰かが誰かを応援するという形にしています。

独自性の中には、支援機関を巻き込むというところがあります。甲府市の事業の中では、支援機関さんが女性のセミナー

に会いに来る。会いに来て、一緒に入るといことをやっています。甲府市役所の方をはじめ、支援機関の方と一緒にワークをやりま。女性が「自分のやりたいことがあるんだよ。喋れるんだよ。でも、そのしくみができない」って言うんですね。だったら女性に事業計画書とか書かせる、書き方を教える、じゃなくて、女性がお話しているのを専門家さんが聞きとって、整理して、事業計画に書いて「あなたのビジネスこういうことですか？」とお返しします。そういうことをしているうちに、支援機関さんも、女性のビジネス市場がどこにあって、こういうことを大切にしているということを理解できるようになってきて、相互作用があるなと思います。誰の顔も知らない銀行には行けないですからね。こうやって自分たちのセミナーのほうに支援機関さんのほうから来てくれるっていうのは大切だなと思っています。



最後になりますが、セミナーですね。市の事業だと、何回とか何カ月間だけとか、セミナーをやって仲間と会っているうちはモチベーションが高かったけど、一人になってしまうと、なかなか日常のことに追われてしまって、続かない。モチベーションが下がるという方もいらっしゃいます。なので、今年度、よくあるパンフレットのように捨てられちゃうものじゃなくて、女性の鞆にも入りやすい大きさと、と作ったのがCan-Passノートというもので、書き込み式にしてあるんです。母子手帳をイメージしていただくといかなと思うんですけど、自分自身がどういう人間で、過去にこんなことを経験していて、これからどんなことをやりたいと思っているのか、みたいなことを書き込んでいく式の起業支援パンフレットです。全国探しても無かったので、ぜひ皆さんも書き込んでいただいて、起業したいけど分からない人がいたら渡してほしいなと思います。甲府市の中にも、すでに支援機関さんはたくさんあります。銀行さんだったり、参画センターもあったり、NPOコールセンターもあったりするんですけど、まだまだ縦割りなんですよ。女性の課題は比較的スタートにあります、そこに対応する機関が無い。自分の軸を作るとか、仲間を作るとかがあんまりないので、これから「やりたい」ってことをしっかり口にして、始めたその人たちのスタートのころを手厚く支援できるようなハブになる拠点ができたらいいなと思っています。事業の紹介のほうは以上になります。

この後、実際にセミナーCan-Passの1期生も2期生もどちらも参加した珍しい方がいらっしゃるの、今日はインタビューをしていきたいと思。ここからは小笠原さんにも入っていただき、2部に入ります。では、このCan-Pass事業に参加した佐藤かおりさん。

▼佐藤: はい、よろしくお。願。い。し。ま。す。

▼加藤: 佐藤かおりさんは今、南アルプス市というところで大きな古民家を借りて、蓋もできないようなお弁当を作ったりですね、大きな古民家になるので、ここでお母さんたちが集まってヨガをやったりとかエステをやったりとか。それこそ甲府のこの事業に参加した人たちが、自分一人で建物を取得したりするのは難しいんだけど、皆でやったらできるじゃない、シェアをしたらって形で一緒に始めた「パブリックハウス モモ」という事業をやっています。活動の内容はすごく多岐に渡っていて、今、「皆のお家」とかよく言いますが、それこそ農作業やったり、お弁当屋さんがあったり、健康相談ができたり。こういった場所を作っている佐藤さんです。



佐藤さんに早速インタビューを始めていきたいと思。特に佐藤さんにお伺いしたいのが、このCan-Passって事業。私たちいろいろ組み立ててきたんですけど、参加する前と参加した後で、どんな変化があったかをお話してください。3つ質問があります。Can-Passに参加して、そもそも佐藤さんは「デイサービスをやりたい」って参加して、事業計画を書いて、1年間一生懸命頑張ってきたんだけど、結局2年目になって、お母さんや子どもたちの支援がしたいってなって、そもそもお客さんが変わっちゃったじゃないですか。だから2年、留年したってところもあるんだけど、その辺どんなふうに変化したのか教えてもらっていいですか。

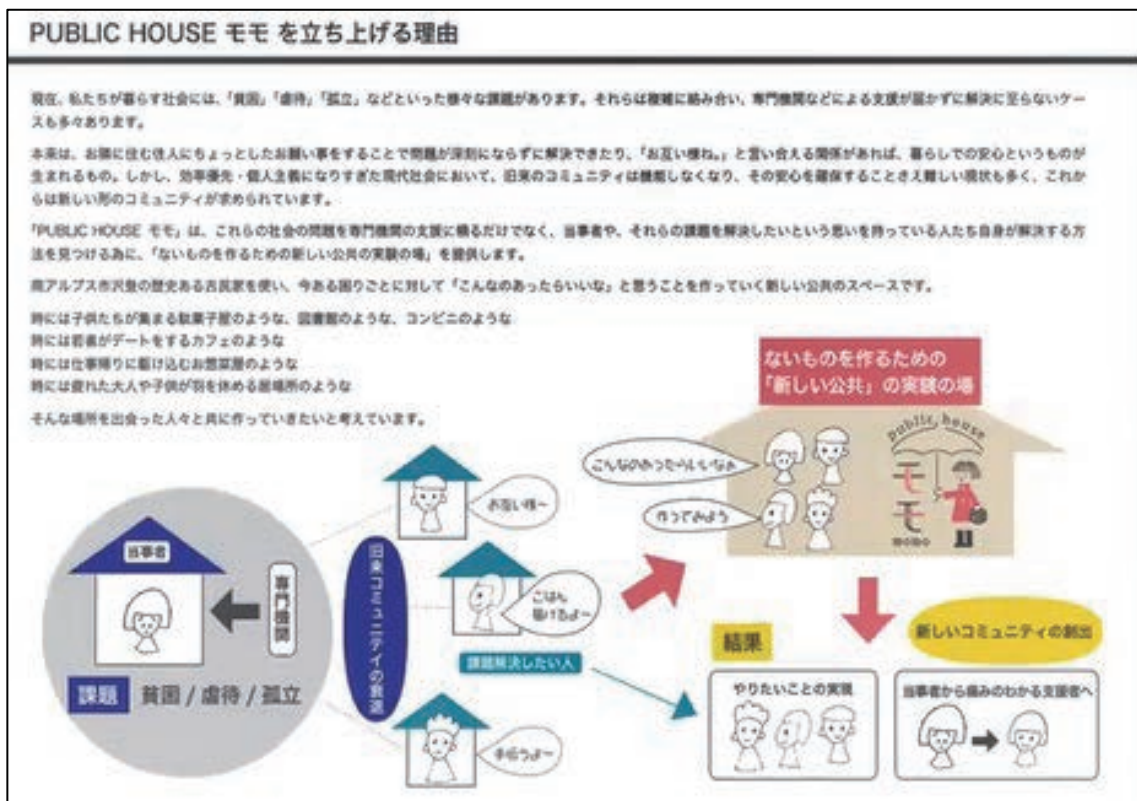
▼佐藤: はい、佐藤かおりと言。い。ま。す。よろしくお。願。い。し。ま。す。私はずっと高齢者とか障害福祉のほうに携わっていたんですけど、なかなか現場が理不尽なことが多くて。もっとその人らしい暮らしや過ごし方ができるように、何とかできないのかなと

思ったので、自分で地域密着型の高齢者のデイサービスをやりたくなっていました。起業支援というので、起業の仕方を教えてくれると思うじゃないですか。なのに「なんでそれやりたいんですか?」とか、「なんでそれがあなただったらできるんですか?」とか「なんで?どうして?」って。自分のできること100個書いてみるとか、分からないことがいっぱいあって、でも「なんで?なんで?」って中から、ある日突然ですね、関わってくれてる人たちに「デイサービスやめます」って言って。なんで?を繰り返していった結果、「違うことがやりたいです」ってことに辿り着きました。



▼小笠原:どのタイミングでデイサービスじゃないなって気づいたんですか。

▼佐藤:周りからは、「本当にそれデイサービスなの?」って、けっこう言われてたんですけど。でも、デイサービスしかやり方を知らず、他のジャンルでは、あんまり働いたこともないし。だからデイサービスで働く人が、しんどさを抱えたお母さんとか、不登校とか引きこもりの子どもを連れてくるとか、まだまだ元気な人は、半分利用者で半分働くことができるような、共生型のごちゃまぜのところだったんですけど。「それってデイサービスじゃなくても、できるんじゃないの?」って言ってもらっても、「私はデイサービスなんです」って半年くらい言い続けた結果、デイサービスじゃなくてもいいのかもしれないなって。いろんな人に話をすればするほど、違うかもってことに、ちょっとずつ気づけていけた感じです。



▼小笠原:よく言うのが、富士山に登るにあたっていろんな登り方があるけど、1個しか知らないと、そこしか富士山の頂上に行けない。佐藤さんの中で富士山の頂上つまり、誰しもがその場で自分らしく暮らしていけるような空間を作っていきたいっていった時に、やり方がデイサービスって道しか知らなかったってことだね。

▼佐藤:そうです。だから本当にCan -Passに行くようになってから、自分がやりたいことを言葉で話すってことがすごくいっぱいあって。話をすると、それだったらできるよとか、これだったらできるよ、みたいな。話をすることで「この間こういう人に出会ったよ」みたいな、言うとなんか新しい情報も来るって感じになりましたね。話をすることによって、すごく大事。「やりたい」ってことを言葉に出して誰かに伝えるってことが大事なんだなって、すごく思いました。

▼加藤:ありがとうございます。で、お客さんも変わったと。デイサービスの高齢者からお母さんたちだったと。次にパートナーも変わっていったと思うんですね。参加1年目は仲間と一緒に参加してくれて、その人たちとデイサービスやるって言ってただけど、今、全然違う人たちと仕事をしている。その辺を教えてください。

▼佐藤:はい。まず1年目は、同じ福祉を目指してる、やりたいて人とも巡り合ったりして、一緒にやろうとか協力するよって人もけっこういて、チームができたけど基本的には、私がやりたいことに手伝うよって感じだったんですね。だから、いろんな責任とか決める時の決定権も私。仲間って一緒にいるんだけど、なんだろうってそういうのがありましたね。

▼加藤:皆でやろう、いいね、って言うんだけど「かおちゃん、お給料いくらくれるの?」とか言い始めたり。ファイナンシャルプランナーさんが仲間が増えて「良かった、お金のことでできなかったから」って言ったら、建物取得するのに1,200万円くらい必要だって言って、かおちゃんに借りてこいって言うんですよ。母子世帯で非課税ですけど。でも、行ったじゃないですか。

▼佐藤:行きましたね。なんかもう、やるしかない。とりあえず1,250万だって言うので。ファイナンシャルプランナーさんが書いてるんだから、根拠がある金額でしょ。それ持って信用保証協会に行行って言いました。どんな話だったか覚えてないですけど、とにかく行って「すいませんでした」みたいな。

▼加藤:非課税世帯ですけど。でも今は仲間と、結局大きな古民家借りて事業始まったじゃないですか、半年前に。その辺はどうですか。

▼佐藤:そうですね。私一人で決定して決めていくってやり方ではありません。困ったことがあれば、皆と共有もできるし、そもそも、やりたいことを目指す世界・社会というものが同じ価値観だったり、哲学が同じってところを1年くらいすり合わせをずっとしたので。目的とか目標は一緒、ただ皆やり方とかアプローチは違うよねってところが共有できているので、そんなに大きく崩れない。そこのやり方が横並びでいくのか、トップダウンでくるのかってというのが大きく変わったと思います。

▼小笠原:なんか面白いですね。最初は助けてくれるって言うてくれる人はウエルカム、ウエルカムだったのが、それじゃあうまくいかないんだなってことに気づいたことが大きな変化だったんですね。

▼佐藤:そうですね。だから、価値観というか、どんなものを目指していいのか、子どもの権利とかお母さんの権利とか。「そもそもなんでやりたいんだっけ、私たち」っていう。こんな人生を生きてきた私だからこれが提供できるとか、これができる。そういう根本というか、やり方が分かったっていうか、考え方が分かったっていうか。

▼小笠原:さっき佐藤さんが最初に、この事業で起業の仕方を教えてほしいと来たのに、なんで「なぜ」をこいつら聞いてきたんだよ、ってなったけど、自分が問い直したり、自分がチームを作っていくうえで、やっぱり「なぜ」って大事なんだなって腹落ちしたんですね。

▼佐藤:そうそう。だからそれが2年目でやっと分かるみたいな。でも今ちょっと3年目があったら、また来年あったら行こうかなって思うぐらい、やりたいことが止まらないというか。

▼加藤:「カフェをやりたい」って来て、そうするとどうしてもカフェのやり方を教えちゃうんですよ。建物取得する、許可取るとか。なんだけど、そもそもカフェでどういうふうに働きたいとか、来てくれる人にどうなってもらいたいとか。そこがないと、結局カフェ、店舗工事700万とか法人設立30万とかって話になって。私はかおちゃんが1,250万円借りに行くのを「違うだろー」って遠目に見てました。それから3つ目ですね。かおちゃん人見知りなんだよね。すごくて。シングルで子どもを育てながら一生懸命働いてきた中で、なかなかつながりって持てなかったと思うんだけど、Can-Pass行く前と今で全然つながり増えたじゃん。どんなふうな感じですか。

▼佐藤:増えましたね。ずっと福祉の仕事ばかりやってると、福祉の人と出会う機会って多いけど、そうじゃないジャンルの人たちってなかなか出会わないじゃないですか。それこそ保育園のママ友と子どもの話はするけど、仕事の話って愚痴ぐらいしかしなかったりとか。でもCan-Passに行くと、クッキー作りたいたいんですとか、お母さんのサポートしたいんですって言うても、やり方が皆違ったりして、いろんな人の人生も聞けたし、Can-Passで一緒だった人もモモには居るし、ずっとは居なくても連絡しようって人もいたりするし、今までの生活では知り得なかった人。モモに来た人とかも、初めましての人ばかりで、張り切って300枚名刺貰ったんですけど、4月中で100近くいったんじゃないかな。フェイスブック上の友だちは80人位増えて、モモにも「イイネ」って押してくれる人。一番大きかったのが行政や支援機関の人たちからも応援してもらってるってこと。普通にお友だちって人もいるし、それだけじゃない社会的信用のある人たちからも応援してもらってるって嬉しいはありますね。

▼加藤:かおちゃん市役所嫌いだったじゃん。保険証止められる、水道止められるっていう経験もあって、市役所大嫌いだったじゃん。今、毎週のように市役所の人、お弁当注文してくれて届けたりとか、高齢者・おばあちゃんがいる家にご飯頼んでくれたりとか。変わりました?その辺。

▼佐藤:変わりましたね。心のある役人さんもいるよね。少なくとも、人権男女参画課の人たちは役所の人ってスタンスじゃなくて、個人の名前で名前呼ぶじゃないですか。そこが親近感というか、大きくなって思いました。気楽に声をかけていい存在というか、「ちょっと来たから寄ってみました」ってフラッと行ける。

▼加藤:その日のお弁当余りそうになると、電話したりするじゃん。

▼佐藤:そうですね。急遽買ってもらえませんか。助けると思って買ってくださいって。

▼加藤:たまに市役所に持ってくお弁当の数、間違ったりしても「今起業の練習をしているところですよ」みたいなこと言うじゃん。「お釣りなんか計算できませんよ」みたいな。

▼**小笠原:**起業っていうイメージがカッコいいとか、すごいバリバリやってるとかじゃなくて、Can-Passとおしながら、ありのままの自分、できない自分とかもいるんだって。隠してなくてもいいんだってことに、いい感じで吹っ切れた感があるのかなって。

▼**佐藤:**そうかも。なんか、失敗しちゃういけないとか、うまくやらなきゃいけないとか、「できない」って言っちゃいけないのがすごい強かったんですよ。「やりたいって言ったからには、自分で最後まで責任を持ってやります」って感じだったんですけど。できないことはできないし、苦手なことは苦手。だからといって、全くやらなくてもいいってことでなくて、しくみを知る必要があるとか、原価率の計算はいまいち分かってないけど、知らないわけにはいかないなと思って。ちょっとずつ勉強したりとか、起業する前に全部勉強して分かるようになるっていうよりは、今もまだ、日々勉強中で成長中。必要なことは、その都度、取り入れていくっていう感じですかね。

▼**小笠原:**それってCan-Passのどの辺り、どういう体験をとおして、失敗しちゃういけないところから、やりながら学んでいいんだって思ったんですか。

▼**佐藤:**やっぱり1年目はデイサービスだったんだけど、本当にお母さんに寄り添うことがやりたいって思ったんですよね。でも、それって、私なんか言っちゃいけないと思ってた。でもそれを「本当は母子支援やりたいんです」って言えた時に、自分には力がないけれど「やりたい」っていうのを言った。でも、「できない」ってことも言えた。言えた時に、この人が「力を出すよ」とか「こういう人とつなぐよ」っていうふうに変わってきたので、自分ができないっていうことを認めるっていうしんどさはあったけど、でも言ってみたら「そうなんだ」くらいな感じでした。だから今周りにいる人も「私、これが苦手なんだよね」って話ができ「そうなんだ」って言い合える人が周りにはいます。すごく多い。

▼**小笠原:**「なぜ？」ってところに立ち戻る重要性を体感したり語っていったからこそ「やっぱりやりたいんだったら、できないこともあるけど、それは認めよう」とか「なぜこれをやりたいんだって時に、私一人じゃなくてもいいんだ」とか。そういう気づきがあったんですね。

▼**佐藤:**そうですね。「なんで？」って何百個も聞かれたりしたけど、でもそれを聞いてくれたから、自分自身を見つめ直すというか。自分の過去この経験があったから、今これをやりたいと思ってる。根拠があって今につながるっていうのかな。それが、すごく大事な時間だったんだなって思います。

▼**加藤:**それを繰り返しているうちに、お金は持っていないけど、貸してくれる人も増えたよね。

▼**佐藤:**そうですね。モモを立ち上げるってなった時にも、皆でちょっとずつ持ち寄ろうってなって、借りれないわけですよ。母子世帯ですしね、非課税世帯だし。こういうことがやりたいって、寄付してもらえないか。出資してもらえないかお願いに行ったら「いいよ」って快く言ってくださったりもして、自分の力と信頼で150万借りることができたりして、頑張ってきて良かったなって思います。自分自身で全部できなくてもなんとかなるって体感はあります。

▼**加藤:**ありがとうございます。裏話を皆さんにも聞いてもらいたいのので、フェイスブックでぜひつながってください。さて、ここからですね、佐藤さんが「なぜ。なぜ。」と言いつづけたという、自分らしさを探すためのプチワークを小笠原さんに進めていってほしいと思います。

▼**小笠原:**はい。ここから私が担当させていただきます。NPO法人bond placeの代表をしています小笠原と申します。甲府市のCan-Passって事業ですとか、子ども貧困対策でしたり、いろいろな地域づくり、まちづくりや、社会的な居場所づくりに法人として関わっています。Can-Passの時以外にも、自分のことについて語ることとかを、大学の先生もやるので授業とかでも「あなた自身はどうしたいの？」って語ってやっています。それが周りを巻き込んだり、いろんな人たちとつながっていくきっかけだなって思っています。



Can-Passにおいては、自分の軸を作ろうとか自分について語ろうってことをやっちはいるんですが、何もいまま、いきなり自分のことを話せてなっても、なかなかしんどかったりすると思うんですね。何話していいか分からなかったり、話していくうちに「あれ？これ何話してるんだっけ？」ってなっちゃったり。一番最初によくやるのが、今回皆さんにお渡ししているレゴ®ブロックを使ってやることです。今日、皆さんに少し体験していただきながら「こんな形で語るんだな」とか実際に体験してもらえたらいいなと思います。

レゴ®シリアスプレイ®っていうメソッドがあります。これは、レゴ®を使って手で考えて出てきた作品に意味を与えて思考を整理するメソッドです。頭で考えていることをレゴ®で形にしようではなく、1回作った後に、それに意味を与えて思考を整理するってやり方になります。最初から何か物がないまま話すよりも、物を媒介として話すことによって、話のコミュニケーションのハードルを下げていったりとか、媒介として自分のことを整理するきっかけっていうのをとおしながら「この場だと、自分のこと話していいな」とか「ちょっと聞いてもらえるんだな」という感覚を講座の中では作ったりしています。自分の軸を探す

上で、自分のことを語ってく時に「この人たちに話していいのかな?」「いいな」という感覚が作れないと、なかなか語れないと思います。語っていきながら、初めて他者と会話をしながら、自分にとって大事なものって何なのか、自分にとって、こういうことが必要なんだなってことに気づきながら、自分のことを見つけていくことができると思っています。このハードル下げる上でレゴ®を使っていきます。基本的にはシンプルです。僕が皆さんに問いを出します。その問いの答えをレゴ®で表現をしていきます。レゴ®で表現と言った瞬間に皆さん一瞬「え?いいものを作らないといけないのかな」とか緊張感が高くなった方もいらっしゃるかもしれません。ポイントは、悩むより、まず手を信じて作っちゃう。これをぜひ大事にしていってください。人によっては、腕組んで悩んだり、肘付いて「どうしたらいいんだろうな」と悩む場合もあるかもしれませんが、ポイントはひたすら手を動かす。レゴ®をくっつけたり、離したりしながら作品を作っていただきたいなと思っています。お子さんがいらっしゃる方とかは、お子さんが手をいじりながら、物を作ったりしながら何かを学んだり考えてる瞬間を見ての方もいらっしゃるかもしれません。僕らの手の細胞の80%は、頭の細胞とつながっているとも言われていますので、手で考える。手を信じて、作ってみるっていう感覚は誰しものが何かしら感じた経験があるんじゃないかと思うので、今日はぜひ、手を信じていただいて作ってください。とは言え、最初に作るのなかなか大変なので、少しシンプルなワークからやっていきたいと思っています。皆さん、右手に黄色のレゴ®を1ピース取ってください。左手に赤のレゴ®を1ピース取ってみてください。右手に黄色。左手に赤。形はどれでも構いません。今から僕がある問いを出します。その問いの答えにじっくりくるほうのレゴ®を選んでください。「友情」。友情と聞いた時にどっちの色がイメージに合うか。画面に見せてください。けっこうバラバラですね。参加者さん何色ですか。レゴ®何色選ばれましたか。

▼参加者:黄色を選びました。なぜというか、赤だと愛情かなって感じで、黄色かなって思いました。

▼小笠原:なるほど。黄色のほうが友情と。愛情というよりも、何ですかね。どんな感じなんですかね。

▼参加者:向日葵の黄色の、楽しいってイメージ。

▼小笠原:ありがとうございます。おそらく、今、黄色を選んだ人も、同じ表現もいれば、ちょっと違う表現もあるかと思えます。今度は赤のほうで。なぜそれにしたか教えてもらってもいいですか。

▼参加者:私の周りの友人たちは、なかなかキャラが濃い、アクの強い友人が多いので、燃えたぎる赤かなって思って赤にしました。

▼小笠原:なるほど。友情って聞いた瞬間に言葉だけを見ると、こんな感じかなってあるかもしれませんが、この色だけでも、その人が感じている表現や捉え方っていうのが少し見えてきたんじゃないかなと思います。さらに今、参加者さんがおっしゃった友情もなんの間違いもないと思うんですよ。ここで自分自身が感じていることを喋っていいんだとか、こういう捉え方もあるんだなっていうような、自分のことを言ってもいいんだ、聞いてくれるんだって感覚を作ったり、自分自身について、ちょっと矢印を向けるっていうのを練習がてらやったりしています。もう1回やりたいと思うので、右手に黄色、左手に赤を取ってみてください。次はですね、「起業」ですね。起業っていう言葉を聞いた時にどっちの色が、皆さんの中でイメージにあっているかっていうのを選んでみてください。画面に映していただいて。起業のイメージは赤もいれば、黄色もいれば。そしたら、ブレイクアウトでさっきのグループに分けていきます。その際に起業のイメージ、私はこうなんだっていうのを語ってみてください。その際にレゴ®を画面のほうに見せながら話をしてもらえたらと思います。ここでのポイントは、自分のことを話していいんだっていう感覚だったり、こういう捉え方もあるんだなっていうようなものをおしながら、自分を改めて見つめる機会にしてもらいたいのと、話していいんだ、聞いていいんだって感覚をまずは作ってもらえたらと思います。

～グループワーク開始(1グループ抜粋)～

▼参加者:赤にしました。今、準備をしたり動いてる中で、自分の仕事に対して一人でやってるので、子どもの幼稚園の行事で忙しいとか、自分のプライベートがどうだとかいう時、単純に疲れたっていう時にストップしようと思うと簡単にストップできてしまいます。でもそこに必死で動かし続けて血を通わせていかないと終わるんだって感じのイメージ。鼓舞する感じですかね。

▼参加者:私が赤を選んだのは、起業したいって言う人は自分がやりたいこととかハッキリしている。そこに情熱の赤を感じて、選んだところ。私からすると、そういう思いを持っているだけでもすごいなって思って、メラメラ見えます。

▼参加者:私は黄色を選んだんですけど、すごく迷って。情熱の赤なのか、ちょっとフランクな黄色なのか。さっき佐藤かおりさんのお話もあったんですが、いろんな人に助けを求めるというのが自分の中で印象的だったので、それは一人の情熱っていうよりは、黄色のほうが皆が集まってる感じがしたので黄色を選びました。

▼参加者:私も迷いました。黄色はお金のイメージ。結局、お金が回ってこないと終わるなと感じてるので。

～グループワーク終了～

▼小笠原:同じ色でも表現が違う場合もあったり、起業ってだけでも、いろいろイメージが違うんじゃないかと思います。でも話を聞きながら、他の人のイメージが、「違うよ」って思うことはおそくないと思うんですね。「そういう感じ方もあるな」とか。こういった感覚から、「話しても大丈夫だな、違いがあってもいいんだな」とか。起業っていうと他者比較をしながら他の人のあれがいいなってこともあると思います。それも大事かもしれませんが、それをとおして、あなたは どうしたいっていうところを 考えていく最初のきっかけとしても、「少しずつ自分の考えを喋ってもいいんだ、聞いてもいいんだ」っていうのを、こういった 緩いところから やったりしていきます。ただこればかりだと、さらに自分の内面だったりとか掘り下げるのは難しいところもある ので、さらに掘り下げるうえで、次のワークをやりたいと思います。今度は、レゴ®ブロックを全部使って、アヒルちゃんを作っ てみてください。アヒルちゃんも答えは無いです。皆さんが思うアヒルちゃんであれば構いません。1分間をお願いします。

【参加者は、レゴ®ブロックでアヒル作成】

はい、作れましたか。画面に映してください。他の方のも見ていただいて、たぶん似たようなのはあるかもしれませんが、全 く同じっていうのは無いんじゃないかと思います。皆さんに同じ形、同じ色、同じ数のレゴ®を事前にお渡ししています。よく、レゴ®を使うとクリエイティブな物を作らないといけないとか、いい物を作らないといけないとか最初に思ったかもしれませんが、同じ色、同じ形、同じ数の物を渡したとしても、こうやって違いが絶対出るんですよ。よく、多様性が大事とか違いがあ っていていいよねって言葉で言っても、体感が伴わない限り、僕らって納得しないのかなって思ってます。なので、こういった形 で一緒に作っていきながら、皆で見ながら、こんな違いがあるんだなって体感しながら、自分にとって大事な物って何なのか などか、あと、他の人の違いなんかを軽く受け入れていけたらなと思います。アヒルちゃんポイントがありまして、実はアヒル ちゃんじゃないんです。アヒルちゃんは、実は「皆さん自身を表している」と言われておりまして、このアヒルちゃんを使って自 分を表現していただきたいです。これは自分の性格かもしれないし、自分の普段の趣味とか仕事かもしれないです。いきなり 言われても「どうやるねん」て話だと思っんです。なので、これを使って練習がてら、こんな感じで話していいんだよっていう のを参加者さんお願いします。

▼参加者:私は足を付けたかったんですけど、パーツが足りなくて、とりあえず水面に浮か nderアヒルちゃんをイメージしました。私、大学に通ってるんですけど、いろんな人に声を かけるのが得意なんです。初対面とかでも、あっちの人に声をかけてみたり、こっちの 人に行ったり、プカプカあっちこっち行ったりしてる感じを表すことができたんじゃないかなと 思います。

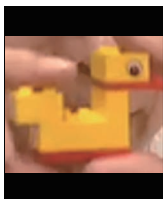


▼小笠原:ありがとうございます。作った物を最初から今のことを考えてたのもあるかもしれ ないけど、話しながらこんな感じかなって、言葉が後からついてくる感覚ってなんとなくわかります？

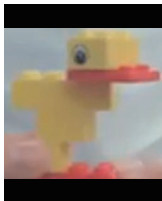
▼参加者:最初に言った言葉に無理やり流れに任せて、ポンポンポンと言葉が出てくる感じですか？

▼小笠原:そうそう。まさにその感じ。ありがとうございます。今みたいな感じで、皆さんも、レゴ®をとおしながら、無理やりで もいいので喋り始めてみてください。言葉が後からついてくる感覚があります。これも、手で皆さん無意識のうちに作って いて、たぶん、「この作り方気持ち悪いな」とか、「こっちのほうがしっくりくるな」って感覚で作っていると思います。これは、皆 さん自身の考えとか思いとかってところに紐づいているところもあったりしますので、なにを喋ったらいいかは、全部レゴ®が 喋ってくれるし、教えてくれるので、これを使って、「私、こういう性格かな」とか、「これポイントかな」っていうのを、無理やり でいいので喋り始めてください。そしたら、後からついてくる感覚がありますので、それをとおしながら、「自分のこと話してい いな」とか、頭で考えていない自分、深層心理的などところとか、こういうところもあるかもしれないなってところを、レゴ®から 自分を見つめてみることをとおして、自分のことを語るってことをやっていきたいと思います。

～グループワーク開始(1グループ抜粋)～



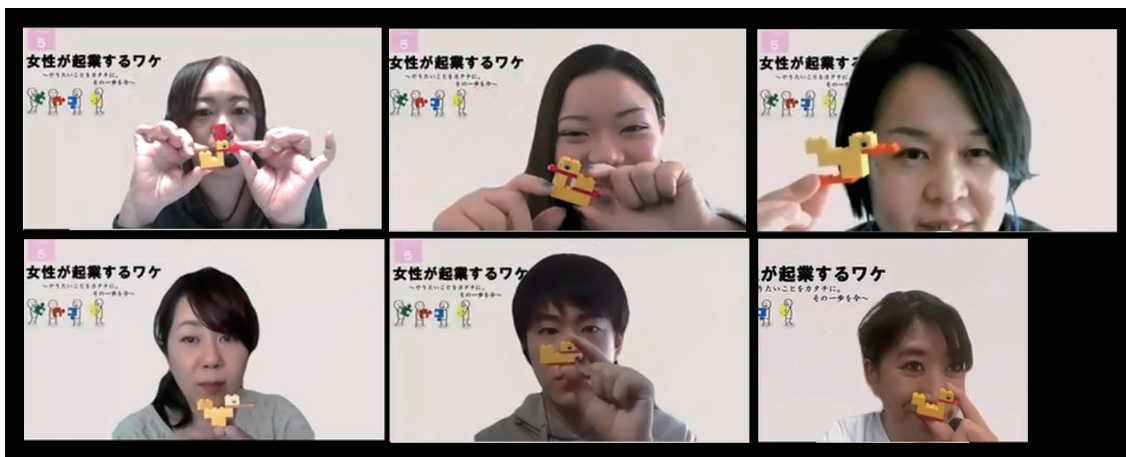
▼参加者:変わったのを作ってみようと思ったんですけど、さっき小笠原さんがおっしゃっていたように、変 わったものを作ろうと思っても、何か気持ち悪いなと思って、結局はこれに落ち着いたんですけど。どうしても 首を長くしたいんです。私もいろんな人と喋ったりとか、「こうなんだけど誰か知らない?」とかつながって いて、人から得られる情報とか恩恵とか欲しいタイプの人で、「私今こういうことをやってるんだけど何かない?」 っていうのを喋りたいし聞きたいっていうのが、首が長いのに出てるのかなって自分的に思いました。 あと、迷って、赤いレゴ®をお尻に付けたんですけど、バランスよく安定してたいっていう気持ちが出たんだ と 思います。



▼参加者：私はアヒルというよりひよこに近くなっちゃって、作ってるうちに首が動かしたくて。私はきよろきよろして、何か落ちてないかなって、話題とか問題とか。常にきよろきよろしている感じが、もしかしたらあるのかなってというのがあったし、頭を動かさないようにした時に物足りなかったんですね。最初は頭を固定していたけれど、結局は斜めに付けました。

～グループワーク終了～

▼小笠原：ありがとうございました。実際にCan-Pass以外でも僕らは「あなたはどうしたいの？」というあなた軸と、「私」のところから語る、ということを大事にしています。その際に、こういった物を使ったりしながら、「自分のこと話していいな、聞いていいな」っていうことをやったり、「他との違いがあってもいいんだな」ってことを、こういったワークをとおしてやっています。今回はトライアル的な感じで皆さんに体験していただきました。「皆違って皆いい」という言葉がありますが、その背景には何があるのだろうか、ということまでちゃんと踏み込めるかが大事だと思います。



▼鮫島：皆さま、今日は長い時間、第5分科会のワークショップにご参加いただきありがとうございました。ここは甲府市なんですけど、全国からオンラインだからこそ出会えることができたこと、幸せに思います。ワークショップの名前に「女性が起業するワケ」ってあったのに、今日はアヒルのレゴ®をやったけど、起業の話は出てこないし、戸惑われた方もいると思うんですけど、こうやって自分のキャラクターとか自分らしさって何だろうって初めて分かった時に、他の人の自分らしさ私の自分らしさがくっついていって社会ができるし、足りないところを事業だったり活動で起こすことで、それぞれが補い合うというところが、甲府市のCan-Passの素敵なおところなんだろうなって思っています。来年は、鳥取市で開催になります。来年の橋渡しとして甲府市でも女性活躍推進のために、この第5分科会をきっかけに、女性の活躍が広がっていけばいいかなと思っています。今日はご一緒できて楽しかったです。ありがとうございました。

第5分科会
女性活躍

女性たちが動き出せるようにするためには
取り組んでいくべきこと

自分がやりたいことを自分でデザインできるように
個を取り巻く環境の整備

- ◎応援してくれる人を増やす
(家族・地域・行政・企業など)
⇒いつでも相談できる人・場所の確保
- ◎セミナー等が無いときでも、起業等、自分のやりたいことをまとめたり、情報を記録するための「Can-Passノート」の活用

第5分科会
女性活躍

誰かのやりたいを 誰かのできるで応援し合い
一人ひとりの可能性をカタチに変える

個のやりたいことが認められ
応援される甲府市へ